

## 第3回江南市下水道事業経営戦略策定委員会 議事録（概要）

会議名 : 第3回江南市下水道事業経営戦略策定委員会

開催日時 : 令和元年10月29日（金） 午前10時～午前11時20分

場所 : 江南市役所 3階 第3委員会室

委員 : 出席委員5名（欠席2名）

横山 幸司（学識経験者）

浅野 敏夫（各種団体）

柴田 喜充（各種団体）

大脇 勇（公募市民）

古田 みちよ（公募市民）

（欠席）奥村 真也（学識経験者）

（欠席）小川 隆史（各種団体）

事務局 : 古田（水道部長）

伊藤（下水道課長）

前田（下水道課主幹）

柴垣（下水道課計画工務グループリーダー）

大池（下水道課業務・経営グループリーダー）

傍聴人数 : 3人

### 資料

江南市公共下水道の整備に関する基本方針（案）について

### 議題

下水道の今後の整備方針について

1. 開会

2. あいさつ

水道部長あいさつ

3. 議題

下水道の今後の整備方針について

○事務局： ～ 資料について説明 ～

○会 長： 今回は、事務局の説明にあった江南市公共下水道の整備に関する基本方針案の内容と、その後の対応策について、ご意見をいただきたい。

○委 員： 市街化調整区域の検討対象区域に採算性の記載があるが、その実効性を担保するため、下水道整備の条件として、対象となる地区の全戸加入を明確に示した方がいいのではないか。一方で、合併処理浄化槽の設置に対しては補助金を増額し、普及促進させるとともに、浄化槽の点検も確実にを行うよう市民の意識を高める必要がある。これは環境課と下水道課とで連携し推進すべきである。

○会 長： 全戸加入を条件づけることは、必要だと思う。

○事務局： 市街化調整区域の江森山尻地区では、全戸加入の同意後、下水道を整備した事例があるため、今後、市街化調整区域で下水道を整備する場合には同様のかたちで進めたい。また、合併処理浄化槽も含めた汚水処理施設の普及について、他自治体の事例も踏まえながら、環境課と連携し、推進したいと考えている。

○委 員： 市街化調整区域の検討対象について、地元の要望の質が非常に大きな課題だと思うし、市街化区域に近接するとあるが、どこまでを近接と言うのかが曖昧だと思うので、近接の意味合いが無制限とならないよう何らかの制約をかけてもいいだろう。また、課題に事業上のリスクと記載があるが、どの程度起こり得る可能性があるのか。

- 事務局： 下水道の整備区域を縮小するにあたって、起こり得る可能性があることを記載している。
- 委員： 普通に考えると当然のことのように思えるので、事業上のリスクとは言いづらいのではないか。
- 会長： タイトルと中身が合っていないように感じるため、書き方を検討いただきたい。
- 事務局： 検討したい。
- 委員： 下水道事業は利益を大きく出すための事業ではないと思うが、できる限り経営を健全化することが議論の基本にあると思う。今回の議論で焦点を当てている下水道整備区域の縮小や変更だけではなく、江南市は水洗化率が近隣市町と比較し低いので、水洗化率を上げることが経営効率を上げるためには、とても大事なことだと思う。
- また、当初の下水道整備予定区域を縮小するにあたり、今後、県に対して支払う建設負担金に関して、削減の方向で県や流域下水道を構成する市町との調整をしてほしい。
- 事務局： 過度に負担することがないように、交渉したい。
- 委員： 市街化調整区域の検討対象について、布袋地区のみ地名が明記されているのはなぜか。
- 事務局： 布袋地区は市の最上位計画である第6次江南市総合計画に住宅ゾーンとして位置づけられているため、ここでは例示として記載している。
- 委員： 今後、市街化調整区域において、どれくらい住居が増えたら下水道の整備をするなど、下水道の整備を判断する基準となる数字は何かあるのか。
- 事務局： 過去、江森山尻地区で対象地域住民の同意を得たうえで、下水道整備を行ったという経緯がある。今後、江森山尻地区の事例も参考にし、下水道整備の実行を決定したい。
- 会長： 委員から、いくつか指摘があったので、内容を基本方針案に反映してほしい。

○事務局： 欠席委員より、事前に意見書の提出があり、「下水道の整備を縮小したとしても、縮小前と同等の建設負担金を負担する可能性があるようだが、今後のランニングコストの削減を考えた場合、一時的な負担であれば、建設負担金の支払いもやむを得ないのではないか。」との意見があった。

この意見に対し、「市としては、過大な負担とならないよう県や関係市町との調整を進めるが、ほかの県流域下水道構成市町の事例を踏まえると、建設負担金額が下がると断定することは難しい状況である。」と考えている。

#### 4. その他

今後の予定について

○事務局： 今年度の策定委員会は、本日が最後となる。今後、経営戦略の策定としては、基本方針に基づいた投資計画を作成し、経営戦略に盛り込んでいく。来年度はその内容について、本策定委員会で計4回議論する予定である。

#### 5. 閉会